

名古屋キワニスクラブ 社会公益賞受賞

「岡崎ホスピスケアを考える会」は、5月9日に社会奉仕団体の名古屋キワニスクラブから社会公益賞を頂きました。キワニスクラブは毎年、社会のために貢献をする団体を支援している団体です。



平成15年5月9日
名古屋キワニスクラブ
会長 齋藤 翁

貴会は終末期にある患者の人間としての尊厳を保ち 患者の望むように生きたい願いが実現することを基本理念としてホスピスケアにかかわるボランティア活動を幅広く活発に展開され多大の貢献をされました
この真摯な活動に敬意を表しその実績を高く評価すると共に人生の終末に対してより良い最後を迎えられるようホスピスケアの充実普及に努め 患者の心のケアに一層の成果を上げられることを願って社会公益賞を贈ります

キワニス社会公益賞
岡崎ホスピスケアを考える会
代表 橋詰清子様

キワニスクラブは ●人生の物質的価値より、むしろ人道的、精神的価値を重くみること ●すべての人間関係において、黄金律「何事も人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」(聖書より)に従う日常生活を奨励することなどを目的としています。

このような目的をもった名古屋キワニスクラブが「ホスピスケア」というものにスポットを当てて支援してくださることを嬉しく思っています。私たちのような小さな会を応援してくださっている方々に感謝して、これからも形として現れるホスピスケアだけでなく、見えなくても伝わるホスピスケアの輪をみんなで広げていきたいと思います。(橋詰)

キワニスとは？

1915年に、アメリカ合衆国のデトロイト市に設立された社会奉仕団体で、その活動は世界的に広がり、現在82カ国の主要都市に8,531のクラブが設立されている。キワニスの名称は、アメリカ・インディアン言葉“Nun-Kee-wan-is”(みんないっしょに集る)から出たもの。“We Build”をモットーとする。

◆ご案内

勉強会 アイデア 岡崎勤労福祉会館

7月18日(金) 10時～12時 「私のたまたま箱」記入(会員のみ)
9月19日(金) 10時～12時 「私のたまたま箱」記入(会員のみ)

手縫いの会 (毎月第2火曜日) 県立愛知病院機能訓練室

7月8日(火) 10時～12時 9月9日(火) 10時～12時

つどい (毎月第3木曜日) アイデア 岡崎勤労福祉会館

7月17日(木) 10時～12時半 9月18日(木) 10時～12時半

◆運営委員会からの報告とご案内

1. キワニスクラブから頂いた賞金は社会に還元できたと思います。アイデア募集中。
2. 井田小学校の生徒たちと「雑巾を通してホスピスケアを学ぶ」交流が始まりました。
3. 8月17日(日)・18日(月) 飛騨千光寺に瞑想・講和など「心と身体の癒し」の研修に行きます。
8/17 9:30頃 JR 岡崎駅集合 (JR 高山駅に14:00集合でも可) → 千光寺へ 民宿で宿泊
8/18 9:00～12:00 研修 高山で解散 費用: 参加費 5,000円 宿泊費 約 9,000円
申込締切 7月5日(土) 申込先 橋詰: 0564-53-3100
参加申し込みをされた方には、詳しい内容をお知らせします。
4. ご寄付ありがとうございました。 いずみの会 田中淑美様 田上トミ子様 中林良夫様 藤井裕子様

4月の勉強会報告

4月18日「私のたまため箱」の16ページ（私のカルテ）までを記入しました。

1. P4＝緊急時のカードは記入したら切り取って、いつも持ち歩くバッグなどに入れておく。
2. P6～P10＝私のプロフィール・病身歴・家族歴は見本を参考にして書き込む。P6の太枠部分の意思確認については家族と話しあい、同じものを3枚用意して自分と家族と、医師に渡しておくといよい。
3. P11＝健康診断の記録は中に差し込んでおく。
4. P13・P15＝私の意思表示書については、2000年12月に「延命治療とは何か」の勉強会（講師：鈴木久三岡崎市民病院副院長）をしましたので、資料を同封します。参考にしてください。
5. 「私のたまため箱」活用方法についての報告です。
 - ①主治医に先ず見てもらい書き込む内容を知ってもらった。
 - ②「たまため箱」は夫婦とも自分の物を用意し書き込んでおき、初診や救急の時に持参した。
 - ③市民病院に入院中「たまため箱」に書いてある病院内の医療相談室に行き、近くの往診できる医師を紹介してもらった。データも送ってもらい、その医師のおかげで自宅で最期を看取ることができた。

5月の勉強会報告

5月21日「臨死体験からみた死後の世界」名城大学理工学部 馬場俊彦教授



人生の究極、根本問題について、こんな真剣な集まりが、親しみのあふれる集まりがあったとは！と改めて驚き帰って参りました。私自身に貴重な学びとなりました。

馬場先生は肩書きで想像したのとは大違いの、大きな声で、身振り手振りで話されとても気さくな方でした。先ず『モリー先生との火曜日』という本を取り上げ、告知を受け、自分の死に至るまでの記録を毎週火曜日に、著者ミッチ・アルホム氏との面談でモリー氏が残した言葉を紹介されました。引き続き国内外での臨死体験された方の紹介。又その後の生き方についての著書を紹介。その事例の多い事に驚きました。人は死に際し、許しを得、愛されているとの実感を持って心安らかに旅立てるように感じました。

昼食後、会場からの発言。お父さんと一番波長の合う高三の息子さんが、病院へ届けたテープに吹き込んだ「お父さん、ありがとう」の繰り返しの言葉。翌日授業中の息子さんへ亡くなったことを伝えると「お父さんがお別れに来たから知っていた」と答えたという話に感動しました。伝え合う波長を感じ取れる感性磨きが必要と痛感。感性は心に深く問う、相手を深く思う、ことで養われるように感じました。（柴田）

◆報告

手縫いの会報告

愛知病院・市民病院・国際病院などにお届けしています。

<お願い>今まではタオルを三つ折か四つ折にして雑巾を縫っていましたが病院の要請でこれからは、タオルを半分に切ったものを二つ折りにし、切れ端を1cm位中に折り込んで縫ってください。薄い方が使いやすく乾きやすいそうです。タオルを寄付して下さる方は、そのままでかまいませんが、半分に切って届けて下さるとありがたいです。また、清拭布は水分を吸収する綿100%の布でお願いします。バスタオル・タオルシーツなどは切らずにそのままで届けてください。よろしくお願いします。連絡先 服部：0564-23-1263

“つどい”の報告

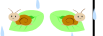
患者・家族・遺族の集まりです

4月16日は二村エッケルト敬子さんも参加されてのつどいでした。配偶者に先立たれた悲しみや、その事実の受け入れ方、残された家族がどのように生きていくかについての話ができました。残された家族の悲しみや辛さが想像以上のものであると実感し、終末期においては旅立つ本人だけでなく、送り出す家族も一緒に充実した時間を過ごすことで、よい人生だったと思うことができるのではないかと思います。

午後は、二村エッケルト敬子さんの『祈り』についてのお話でした。人間の内には、人間的な面（色）と神聖な面（空）がある。この中心にバランスを崩さずに立てたとき私たちは『全き人』になることができる。他者の苦しみを自分の苦しみとし、他者の喜びを自分の喜びとして受け入れられたとき、人間として生まれてきて良かったという感動を味わうことができる気がします。

“つどい”は、色も空も共有できる場でありたいです。

（柴山・難波）



◆事務連絡

今年度の会費がまだの方は振込みをお願いします。

